

供が遊ぶ時は必ず邪魔だと思ひ時がある。その時こそその整理を必要とする時であろう。並ばねば不便と感ずる。その機会を捉え、その方法を考える。幾度か幾度か繰り返しては、混とんとした中から、整然と並ぶ様になる。幾度か試み教師のよき援助で、自ら創案して並び方が案出される。急いではならぬ、子供はどこまでも具体的に自分で体験せねば納得出来ぬものである。どんな小さな事でも、体で感じ、手でさわり、初めてうなづけるのが子供である。誠に子供の教育は時間がかゝり、面倒である幼児期こそ、一生の基盤を培う時である。

幼い子供の生命の激しさは、人生の足場をもとめ、根を張ろうと、真剣な闘をしている瞬間である。赤は赤に、白は白に、各人各様の様相の中に、創意創案の芽はのびて行く。急いで大切な生命を失つてはならぬ。形に捉われて魂をぬかしてはならぬ。子供は言葉で学ぶのでなく、雰囲気や学ぶ者である。

私達は深い研鑽と、鋭い感覚をもち、周到な準備のもとにあたらねばならぬ。

素晴らしい成長力をもつ子供との取組は、果てしも無く続く。私達は人生としての生気と敏感さを失つてはならぬ。

(熊本市五福幼稚園長)

新入園児を迎えるに當つて



遠藤孝子

○準備すること

近頃通勤の道すがら幼い子どもに呼びかけられたり、追いつがつて足をとめられることがある。この子ども達には就学前期一ケ年の幼稚園教育をうける適令期に達したよろこびの表情がつゝみきれないものゝようである。又ある子どもが柱にもたれて泣いているので、その子の母が、「どうしたの」ときくと、「うち、早よ、幼稚園へ行きたいのになかなかきになれへんわ」といつて悲しがつていたというのである。大方五才にならないと幼稚園には入れてもらえないとささとされてはいるにちがいない。そこで、新入児を迎えるについては、先ず、

(一) 幼稚園を紹介する。

という仕事と考えられる。それには第一に幼稚園は一年で足りるというのでなく、せめて一年でもということに立ち至っている事情を説明しなければならぬ。又幼稚園志願者は認識をもつて、いる人達ばかりとは限らないし、まだまだ近所

のお付き合いで願書を出したと思われるふしも伺えるので、「幼稚園はどんな所か」をわからせるために、幼稚園の年間行事や一日のカリキュラムの展開の様子を写真にしてまとめたり、幼稚園に協力するとはどういう風にするのかなのかについて、紙芝居にでもして見たい。そうして幼稚園の形式

や内容や経費についても納得が出来るように、パンフレットも用意しなければならぬ。又個々の幼稚園の経営や管理の状況のみでなく、此の土地のこの社会の教育の一貫性に於て幼稚園はどういう風に設置当局から管理をうけているかという説明をきく機会も用意しようと思つてゐる。幼稚園が設備や備品を改善しようと工夫したり、理想的にと努力するの一人々々のこの成長発達を目標として懸命になつてゐることで、常に前進的経営に思いをひそめてゐる大要を理解されるために、さゝやかなる研究物にしても提示したい心組みである。

(一) 保護者との申し合せをつくる。

という様なことは至極当然ありきたりのことだと思つて、短い一年間の保育を能率的にと意図する中の一工夫として、いろいろ用意したいと思つてゐる。それは例えば健康教育の面のれんらくについて拾つて見ると、赤色の紙片をもち帰らせた場合には「本日疲労の状態のまゝで帰らせませう」とか、黄色の紙片の場合には「今日は元気がありませんでした」と

いう風に了解し合える様に「うなづき合ひでわかり合ふ」様なものを用意したいと思つてゐる。最初の集りの印象は強く残すもので、約束ごととは凡て一年の計をたてる上にもしつかりとしたものにしておきたい。非常時連絡事項なども特にそう考へてゐる。

(二) 諸用紙の印刷を調製する。

入園開始と共に事務的に処理しなければならぬ、統計や調査事項がある、法的に定められたもの以外に幼稚園として備えつきたい帳簿や用紙類の印刷など、管理企画上入園児を迎える迄に整備しなければならぬことである。

(三) 一環境の整備をする。

こどもの健康と生々しさを育むために春の自然界には格別の計画性がある。園庭の設計には花壇と共に素足の感触を楽しむ草原を用意したい。併しそれは入園児を迎える「今日になりて」思つても果せないことで、前年度のこどもがふみ荒して芽が出そうにもなかつたら、種子まきやら移植で補充の用意をしておかねばならない。又新入児の何よりものみ力と思われるものは運動具であるが、之には全身的な運動をもたらすものであるだけに、入念な点検をしなければならぬ。又動物飼育小屋、垣根等腐蝕や破損の修繕も見届けておかねばならない。

机、椅子、ガラス窓の破損修理はもちろん、保育具、保育

材料の補充取揃え、幼児所持品の置き場の整理は幼稚園生活に安定感をもたせる上からも大切なしごとである。室内装飾は敢て四月のことに限らないが、保育主題に関連して幼児の興味を誘うものをしつらえたいと思う。色彩、形状の点、配置についても保育の目標をみつめてかざりつける。

○保育についての注意

(一) 子供の氏名と顔を早く覚えること。

こどもを知ることの第一歩として、親しくなることが何よりも大切です。その第一歩としてその氏名と顔のれんらくを早くつける努力が大切、そうしてどのこどもにも平等に言葉をかけてやりたい。皆を一度に対象としてでなく、一人々々のこどもに話しかけてやると親密度が高まる。

(一) 指導は細心で行届いて全体をみつめて見落しがないうちにありたい。

腕白ものとか、よく泣くこどもとか、特徴のあるものに注意や努力が傾いて取り残すこどもがよくあるが、入園当初は先生を独専したいと思っっているのが多いので、ふと淋しからせてしまおうと取り返すのに困る。

(一) 効をあせってはならない。

終了児を送った三月と、新入児との四月には一ヶ年のへだたりであるから、指導の手心には引き返しが必要だが「うっ

かり先生」には手加減に切り替えられていないのがある。その時には大概「よくわかりましたか」などという言葉を使っている。

(一) こどもに興味をもたせることの上手な教師は、相手の心理をよくつかんでいるが、単に興味にひたらせるものでなく目標を見失わないようにしなければならぬ。

(一) 創意創作の出来ない指導には生々しさが無い。しかし、一歌曲を取扱うにしても単に歌詞を覚えさせるに止まらず、談話、見学、しつけ、絵画、製作、リズム、劇など、生活や経験の様々の面に展開し、その間に社会性を培い、健康教育の目標を達成するという様に工夫があれば、相手をして活気のある豊かな生活者にすることが出来る。

(一) 「しつけは厳格に」は習慣形成の原則におきたい。これは入園当初から行って行きたい方針である。運動具で遊ぶ上の規約という様なことも、園内の打合せで規準をつくって守らせねばならない。他人にめいわくをかけない、そうして自分自身にとっても安全な生活を指導することは、そのまゝ社会人として道を歩かせることが出来るものである。

(一) けんかの仲裁は落ちついて

入園当初は特に感情の抑制のし難いこどもこどもで満ちている押し合い、顔のゆがめ合い、さてはつかみ合いも予想出来る。しかし、あわてふためいてひきわけるといいうのでなく

むしろ、しばらく見物してよいと思う。それはけんかは
仲よしを体験する道程で「仲よくしましよ」といふ聞かせ
てもそれだけで仲よしの味は味えるものではない、存分にふ
んまんを發散させると、おのずから情緒も安定するというこ
とも知っていたい。又こどもの感情は本来至極あつさりして
いるものである。「こどものけんかに親出すな」とうたわれ
ているのにも一理があることを感じたい。

(一) 静かな境地を味わせる。

とかく元氣のあることゝ騒々しいことが混同されたり、静
かさと空虚が一つに考えられたり、自由と乱暴が間違えられ
たりする。こどもは眼の働きはしっているが、耳の働きを云
えるものは案外に少ない。「静かにする」ことによつて、観
る、聴く、考える、が可能である。一生を通じて大切な態度
は最初から学びとらせて行きたい。

(二) 「いや」というこどもについて。

いやというこえを氣まゝとばかりはうけとれない。はずか
しい、馬鹿らしい、面白くないからなど、その時の状態で原
因は様々だとは思ふが、多くの場合、そのこどもについての
指導が適正を欠いていたり、自由の領域がせまかつたりする
ことに自らを反省する必要がある。声に、表情に、身ぶりに
表現の活潑なこどもには、教え導かれることが多いものであ
る。

○のごむこと

一月号によせられた山村先生の御意見には、おそらく同志
の想いがつきていふと思う。実に幼稚園は教育施設であるか
ら、外観にも内容にも威厳を保ちたいものである。それには
新しい姿への歩調を合わせなければならぬ。低い伝統の
視野の中に佇んであきらめていたり、一人ぎめの習慣にひた
つていては迷惑になる。あく迄もこどもの幸福をねがつての
ことである。高い視野にたてば同志だけの語らい、結集の上
に宗教家、芸術家、政治家、実業家、評論家等々、社会の有
識をもとめ意見をきく雅量も大切である。幼稚園を幼稚の状
態にあらしめてはならない。正しく未来につらなる發展を期
するためには、保育の実際にも設備にも、教師にも投げかけ
られている問題は少くない。追いたてられたり、つかれてば
かりいるようでは、敬愛されるものにはなり難いと思う。

(塚市立幼稚園長)

訂正 本誌五十三巻第一号(一月号)、山村きよ先生の「年頭にあ
たつて」中、二十一頁上段三行目「増設補助費として四五〇〇万
円」とあるのは、「四五〇万円」の誤植であります。おわび致
します。